

＜暖冬？寒冬？＞「ビオトープの四季」から数えて4度目の冬です。この冬、キャンパスの立地する辺りでは平年並みから暖冬という予報ですが、霜柱の立つ日もあればコートを忘れてしまいそうな暖かい日もあり、決して過ごし易くはありません。ただ例年になく晴天の日が続くためか富士の雪は少ないですね。植物は？というと、マンサクの花芽はまだ固い一方、ウメはあちこちで咲きだしました。春の足音を早々と告げるこの二つの花は年によって咲く順番が違います。気温とか日照時間とか、そのほか何を判断材料にしているのでしょうか。



＜水面(みなも)に水鳥＞黄砂が到来するようになる頃までこの時期は空気が澄んでいて富士や大山、丹沢の山並みがよく



眺められます。東西に長く尾を引く飛行機雲も鮮やかです。空だけでなく川や池の水も澄む季節です。キャンパスの脇を流れる座禅川にはシラサギ、コサギ、アオサギ、カワセミ、そして時にはカワウも見られます。ビオトープの池とその周りの



＜コサギ＞

雑木林はスズメ、ヤマガラやメジロなどの小鳥たちで年中賑やかですが、池に限れば、カモたちがやって来るまでの冬の一月ほどは一年を通じてとりわけ水が澄んでいます。左写真は水面まで垂れ下がる柳の小枝に留まったヤマガラの姿です。体を動かす度に広がる波紋で水面に映った姿が揺れていました。次の写真はハヤなどの小魚を狙うコサギと一休みしているカワウです。もう一つは川に沿って上流までやって来るカモメの写真(キャンパス近くではありませんが)です。冬でないと見られません。



＜上：カワウ、下：カモメ＞

＜たちまち泥水＞マガモやカルガモが過密なまでに遊びに来るようになると、ビオトープの池の澄んだ水もたちまちに泥水と化します。ただ池に浮かぶ枯れ葉や朽ちた水草を



片付けてくれ歓迎すべき鳥たちであります。



そっと眺めていると次々に岸边に上がっていきました。おそらく秋に沢山落ちたドングリを食べるためでしょう。(文と写真：松本正勝)

